

## 強化委員会資料

令和5年1月17日(火)

### ① 県選手権の反省

- 審判関係について  
別紙

### ② 3月までの事業について

#### (1) 県強化研修会(県強化リーグ)について

担当の先生、組み合わせ、会場取りなど本当にお疲れさまです。

～運営について～

#### ○第1回 12月11日(日)

1部→招待校なし、2部～3部は予選リーグ・決勝トーナメント。

2、3部では参加校による総当たりのリーグ戦がしたいとの声があがった。

第1回は会場の面数の関係で昨年度と同じ形で行った。

当日になって会場に現れない学校あった。各会場で対応をしてもらった。

#### ○第2回 1月8日(日)

1部招待校 男子：神奈川OBチーム 女子：Lunet(社会人チーム)

関係してくださった方々、ありがとうございました。

2、3部で参加校による総当たりのリーグ戦に変更。

組み合わせに変更した旨を記載したが、運営の先生に渡す書類が前回同様のものだったため、予選リーグ・決勝トーナメントの形式で対戦表を作成していた先生がいらっしやっった。

第3回も第2回同様に行うので、配布書類等の確認をお願いします。

#### ○第3回 2月5日(日)

1部招待校 男子：東海大相模 女子：石井ソフトテニススクール(日大藤沢)

**女子**

1部が7校+招待校。2部は5校。

3部は湘南台中学校がいるリーグを7校とする。

第4回の振り分けが要項とは違っているの、参加校に周知をする。

#### ○第4回 3月12日(日)

男子：要項通りの振り分けとなります。

女子：1部は16校 第3回1部7校+2部1、2位、3部1位+推薦校1校

2部は15校 第3回2部3～5位+3部2、3位(4位)

3部は16校 第3回3部4、5位(5、6位)+4部1位

※( )は第3回3部7校リーグにおける順位

#### (2) 都県対抗小田原インドアについて

3月5日(日)

連盟事業ですが、強化委員会もサポートします。内藤先生、新井が選抜のスタッフになっています。2人とも運営には関わりますが、ご協力をお願いします。

会場準備：県西ブロックよろしく願いいたします。

個人戦(ガーデン) 西岡先生、嘉山先生

団体戦(アリーナ) 吉田先生、柿内先生

### ③ 2023年度への申し送り

○強化委員会と審判委員会に分かれます。

○委員会事業内容検討

(1) 春季大会（強化・審判）

- ・ 場所：横山公園テニス場12面 参加校数36校。  
予備日も横山公園テニス場です。
- ・ 相模原ブロックの教員審判講習を実施してください。

(2) 県総体（強化・審判）

- ・ 来年度からは団体戦、個人戦の決勝、3位決定戦、関東決め、代表決定戦の審判も開催ブロックの先生方に担当していただきます。  
コート責任者は審判委員会で行います。
- ・ 団体戦シード校選出について  
内部規定なので、部外秘でお願いします。  
決定したシードシステムを基に委員会で原案を作り、決定は6月の専門部会で行う。  
シード候補校を抽選枠に入れてシミュレーションをする。  
この先の大会開催状況を考慮に入れながらシード校の選出を行います。

(3) 関東大会向け強化練習会（強化）

- ・ 2日間南毛利テニスコートを使用する。関東に向けて競技レベルの向上だけでなく、関東大会で勝つ意識をもたせる。

(4) ジュニア審判講習会（審判）

- ・ 選手の審判技術向上につながるよう実施したい。

(5) 県研修大会（審判）

- ・ 会場おさえを総務委員会にお願いします。
- ・ 会場を1位1会場、2位1会場、3位1会場、4位2会場くらいでどうだろうか。
- ・ 『YONEX杯』をドローに明記する。
- ・ 8月19日（土）本戦、20日（日）予備日※参加条件は両日とも参加できること

(6) 県選手権大会

- ・ 団体戦、個人戦の決勝戦の審判を行う。（審判）
- ・ 都道府県選手選考会に出場するペアの検討。（強化）

(7) 2級審判講習会（審判）

- ・ 次年度県総体開催ブロックで行う。多くの参加を呼び掛けたい。

(8) 都道府県選手選考会（強化）

- ・ 県選手権大会個人戦で上位のペア、団体戦の上位校で活躍したペア等の選考基準を満たした16ペアを選出。2日間試合を行い、3月の都道府県全中に出場する8人を決める。

(9) 県強化研修会（審判）

(10) 都県対抗小田原インドア（強化）

- ・ 関東ブロック8都県の選抜チームが参加。アリーナで団体、ガーデンで個人を行う。  
本番は2日間かけて団体戦を体育館、個人戦を外（オムニコート）で行う。  
1日で個人団体どちらも行うので、本番直前に各都県良い機会となっている。

○2023年度 各大会日程案

(1) 春季大会 (強化・審判)

5月21日(日) 横山公園テニス場 12面

28日(日) 横山公園テニス場 12面

予備日: 6月4日(日)、11日(日) 両日ともに横山公園テニス場

(2) 関東大会向け強化練習会 (強化)

8月2日(水)、3日(木) 南毛利テニスコート 宿泊はなし。高校生は3日で。

(3) ジュニア審判講習会 (審判)

各地区で開催

(4) 県研修大会 (審判)

8月20日(土)、予備日21日(日)

(5) 県選手権大会 (強化・審判)

11月 3日(金) 女子個人戦: 三ツ沢公園テニスコート

5日(日) 男子個人戦: 三ツ沢公園テニスコート

11日(土) 女子団体戦: 小田原テニスガーデン

12日(日) 男子団体戦: 小田原テニスガーデン

19日(日) 予備日 : 県立スポーツセンターテニスコート

23日(水) 予備日 :

(6) 2級審判講習会 (審判)

11月23日(木) 厚木市立厚木中学校

(7) 都道府県選抜選手選考会 (強化)

11月25日(土) 大津公園テニスコート

26日(日) 小田原テニスガーデン

(8) 県強化研修会 (審判)

① 12月10日(日)

② 1月 7日(日)

③ 2月 4日(日)

④ 3月10日(日)

(9) 小田原インドア (連盟・強化)

3月3日(日) 小田原テニスガーデン、アリーナ

④ その他

## 県選手権・県強化の審判反省

2月3日(金) 県専門部会 強化委員会資料

- ・副審が、判定区分以外（センターライン、ベースライン）のアウトで手を挙げている。サインが小さくて正審が気づかないままプレーが続いた。
- ・副審のサイドアウトのサインで、落下点に向かない、手や足が逆などといった動きに課題があった。
- ・採点票のゲーム内ポイントが書かれないまま試合を進め、ゲームセット。最終的なスコア（ゲームカウント）は合っていたが、ゲーム内ポイントがわからない（選手も覚えていない）
  - 審判の基本技術が身につけていない選手が何人も見受けられた
- ・相手のミスで喜んでいる場面があった。マナーとして、あまり相応しくはないか。
- ・団体戦で、チェンジサイズ時にベンチからだいぶ離れている監督コーチがいた
  - コート主任から注意した
- ・団体戦で、コート外からベンチに話しかけていた人がいた。保護者のようだった？
  - 強化委員から注意。
- ・試合初めの練習終了後の「レディ」のコールの後、また団体戦でトス終了後、すぐに試合開始したい。（ペアでの打ち合わせやチームの集合をしない）
  - 「マッチは連続的に」とハンドブックにある
- ・団体戦の質問に対する再判定で、選手しか呼んでいないところがあった。
  - 団体戦では、選手だけでなく監督も呼んで説明をする。
- ・県強化で、団体戦の2面展開の際、採点表に記載した学校名が2枚で逆になっていたため、混乱が生じた。 →リーグ戦では番号の小さいチーム、トーナメントでも上（トーナメント番号の小さい）チームを左に記入する。

### <まとめ>

県選手権であっても、生徒の審判技術が定着していない場面が多く見られた。時間が満足に取れない、コロナ禍で練習試合があまりできなかったこともあると思いますが、地区やブロックで事あるごとに声をかけていくことがまずできることだと考えます。

審判技術向上に向けて、県強化の対戦表の裏に審判に関する文面を載せる、広報誌に少しスペースをもらって審判について書いていく、審判技術の動画を審判部で作成し、共有していく（DVD作成や、HPやYoutubeなどにアップするかなど、検討していく）などしていかななくてはいけないと考えます。また、審判事例の問題を、Google フォームで作成中です。

負担過多にならないようにしつつ、検討していけたらと考えます。ご意見いただけたらと思います。

→練習や練習試合などで、「コールやサインをわかりやすく」、「ボールの行方を最後まで目で追っておく」、「判定区分を明確にしておく」などといった基本的なことを地区やブロックの大会、強化リーグなどからやっていただけたらと思います。顧問の先生方の知識やスキルが向上することも、生徒の審判技術向上につながると考えます。

（例）入っていないボールを、各自で「アウト」と言う、試合形式の練習で審判をつける、「今のは正審と副審のどちらの判定区分だと思う？」と顧問の先生から投げかける

ジュニア審判資格申請 今後の流れについて

2月3日(金) 県専門部会 強化委員会資料

文責： 相模原市立清新中学校 吉田直人

ジュニア審判の登録を今月中に一度完了していただきたいと思います。(県西ブロック・横須賀ブロックについては完了しています)

1. 新しい個人登録番号がわかっている学校を先に登録します。
2. 新しい個人登録番号がわからず、登録が止まっている学校は、登録ができていない理由を、吉田まで教えてください。集約し、場合によって、日連に問い合わせ等の対応を大島先生とともにします。
3. 新しい個人登録番号がわからず、登録ができなかった学校の選手については、申請のリストから外して次年度に登録していただきます。(登録できなかった学校には必ず登録費の返金をお願いいたします。)

登録費をもらっているのに登録できなかったという事態を防ぎたいと思います。

また、登録できなかった学校には必ず登録費の返金をお願いいたします。

ただし、すでに審判マニュアルを配布してしまっていることがほとんどだと思いますので、各校で早急に新システムの登録番号を入手することをしていただき、登録にこぎつけたいと思います。

以上、よろしくをお願いいたします。

| ブロック   | 進捗                              |
|--------|---------------------------------|
| 県西、横須賀 | 完了                              |
| 相模原    | 5校、個人登録番号がわからなくて登録できていない。       |
| 横浜     | 12月末現在、8校+1地区の状況がわかっていない。       |
| 県央     | 2校が日連からの返信待ち、2校が生徒数人の情報が見当たらない。 |
| 湘南     | 日連の番号は提出されており、1校返信待ち。           |
| 川崎     |                                 |
| 中      | ほとんどの学校が登録できていて、名簿とお金がそろっていない。  |

## 県外大会レポート

県外大会に参加した顧問の先生にアンケートを行い、今後のチームの課題を挙げていただきました。今後の子どもたちへの指導に生かしていただけたら幸いです。

### Q：大会の様子・反省・学んだこと（抜粋）

- 優勝した芳賀(栃木)にもそこそこ競れているので、通用するプレーがあるのだが、簡単なミスが多すぎる。ミスを減らすようにするか、ミス覚悟でパワープレーを増やすかのどちらかだと思う。県を勝つにはミスを減らすことだと思うが、それだけでは今の関東他都県の上位には勝てないと思うので、そこにジレンマがある。
- 強豪校の雰囲気や技術の高さを感じることができ、良い経験となった。また、県外の学校とできるだけ行く価値があると感じた。
- 県外の選手の動きの速さ、ゲームの入りがわるい。ゲームをとりきれない。風を味方につける。打点をさげない。気持ちの面のパフォーマンス。など。
- 多くの上位大会選手と試合をすることで、貴重な経験をすることができました。目標を改めて考えさせられました。
- 大会だけでなく、自主的に練習試合を組み、熱心に練習に励んでいました。上位大会選手と試合をすることで、多くの課題を見つけることができ、今後の練習の励みになりました。
- (関東大会の当日練習で) ボールを持参することをすっかり忘れてしまった。関東向け合宿等ありがとうございました。
- 出場に満足せず、関東でも活躍できるチーム作りをしていきたいと思います。
- 相手の学校に名前負けしていて攻め切る気持ちが持てずに試合に出るメンバーもいた
- コロナ禍で運営は大変そうでしたが、いい経験ができました。
- 前衛で勝負する大切さをとても感じました。
- 他県の選手のプレーを見ることができ、意識向上に繋がりました。
- 顧問自らの意識を高めることができた。
- ジュニアからやっていなくてもこれ(関東大会)以上の舞台を目指したい。
- 関東大会において、その雰囲気にもまれることなく、いかに普段通りの力が出しきれるかが大切であると改めて感じました。
- 関東大会から逆算して考えたときに、前日、一週間前、1ヶ月前、半年前、1年前、それぞれの時期においてチーム全体としてどのような活動をして、どのような心構えが必要なのか、この辺りがはっきりとしていないと、やはり上位大会で戦っていくのは難しいと感じました。

- 勝ち上がっているチームをみたとき、ファーストサービスの確実性やほとんどミスのない展開が目立ちました。当然ではありますが、テニスはミスの少ない方が勝ちます。その辺りにも日頃から意識や気持ちをもって、練習に励んでいきたいと思います。
- 待機場所が確保されていたため、選手、保護者ともに落ち着いて大会に臨むことができた。さらに、練習コートがあったのはとても助かった。
- ファーストサーブの確率が高い。打球への入り方、高い打点での打球前衛がセオリー通りに攻守ができる試合観がある
- 今年度の大会は今まで経験したことのあるどの大会よりも応援への制限が厳しかった。(声を出す応援はNG)
- 様々な難しい状況が今後もあるかと思うので、試合をしている2人だけすべてができるように準備しなければいけないと感じた。
- 猛暑の中、技術、精神面で力を出しきれない部分もありました。どんな状況でも力を発揮させるだけの指導力が必要であると深く思いました。この経験を次に繋げていきたいと思います。
- 分散会場で大変だと思いますが、看板や掲示板もなかったので少し寂しかったです。ですが、ツイッターの側方などデジタル化しているので良いと思います。
- 上には上がっているんだと痛感しました。ありがとうございました。
- 今回顧問として初めて関東大会に出場しました。先に攻撃され、受け身のプレーになってしまうことが多かったです。先に仕掛けるようなプレーをさせられればよかったなと思います。そのためにも、攻撃パターンを作っていかなければと思いました。
- 他県の選手を見ていると高い打点で打っている選手が多い印象を受けました。高い打点で打っているけども、ロブやショートボールの使い分けも上手だと思いました。また、前衛もポジションがしっかりと取れていて隙が少ないように感じました。そういったプレーに少しでも近づけられるよう今後も指導していきたいと思います。
- 会場の雰囲気などで生徒が緊張する様子がみられた。県大会よりもより厳粛となっている空気に飲まれないよう、試合慣れを含め試合に向けた練習を普段から行う必要があるように感じた。各県毎に実力差があり、会場審判も慣れているスタッフ・慣れていないスタッフ等おり、少し判定に疑問を抱く場面もあった。
- 県大会との会場の雰囲気の違いや中学女子ソフトテニスのレベルの高さどこの代表も力に大差はない。大きな大会でも、試合でやるべきことは同じ。普段通りできることが大事。

- 今回は関東大会に出ることが目標でしたが、関東大会で勝ち進むためにはもっと高いところを目標にしていかなければいけないと思いました。常に一歩先を意識できるような指導をしていきたいです。
- 猛暑が続く中での大会なので、普段の練習から体調管理をしっかりとって、体力強化に努めたいです。

**Q：今後の課題（抜粋）**

- 簡単なミスが多いので、その改善。
- クラブチーム扱いではなく、部活動として参加できるようになると良い。
- 前衛の決定力
- ミスを減らして、自信をもって練習したコースに打てること。陣形が崩れた後の、落ち着いた力まない攻撃。サーブ、レシーブの確率。思いやりと支え合いの中で、笑顔あふれるソフトテニスができること。見てくださっている方々も、思わず笑顔になるようなガッツあふれる試合をすること。
- 各地域から参加することのできる日程調整
- 特にありません。貴重な経験をさせていただきました。
- 練習から周りの雰囲気にも飲まれてしまった。
- 3日間戦い抜く選手・チームの気持ちの強さ
- 団体としての総合力。ファーストサーブの精度。攻める前衛の育成。
- 前衛のスピードと駆け引き、1stサーブの確率、前衛のポーチのタイミング  
県外を含む様々な選手との練習や対戦により、精神面や技術面の向上。
- 前衛の育成。選手一人ひとりの意識の向上。上位大会での経験をふやす。  
二人で一本をとることへのこだわり。ミスのないテニス。相手にミスをさせるテニス。
- 競ったゲームが取れない。
- サーブレシーブ、前衛力の強化
- 本当に関東、全国を想定して準備することが必要だと感じた。監督だけでなく、チームとしてその動きを取る必要がある。県大会でちょっとでもゴールに入ってしまう気持ちになると関東で『戦う』のは厳しい。そういう環境をチームとして、秋頃から作る必要がある。
- 大会で得たものをチームに還元していくこと
- 天候に左右されず、自分達のプレースタイルを最後までやり通せる選手を育てる。
- セカンドレシーブからの攻め、ファーストサーブの確率アップ
- 本番で実力を発揮するための集中力
- 団体戦でも参加出来るように全体の底上げと私自身の競技に対する知識



- 自分のプレーを冷静振り返ることができるようにすること。勝敗、ポイントにとらわれることなく次のプレーにうつれること。
- 出場が決まってから手続きの締め切りまでの期限が短いと思いました。県大会の日程的に難しい部分ではあると思いますが、何とかならないものでしょうか……

#### まとめ

今回アンケートにご協力いただきました顧問の先生方、校務等でお忙しいところありがとうございました。皆さんのアンケートを拝見し、簡単ではありますが、私を感じたこと・考えたことを書いてみました。

県内の試合では強打したり、厳しいコースに打つと相手の返球が甘くなったり、エースになったりする。県外のレベルの高い選手との試合では、こちらが強打しても返球が甘いボールにはならない。単発では決まることがほぼないため、戦術を使って相手の体勢やリズムを崩してくる。子どもたちにそういった戦術を教えることが神奈川県レベルを向上させることにつながると考える。

また、優れた前衛を育てることが大事だと感じている方が多かった。前衛を育成するのは時間がかかるし、知識も必要。顧問が学ぶ姿勢が大切であると感じた。ただ、根底にあるのはサービス、レシーブの精度とミスが少ないこと。プレーの精度を上げるためには反復練習が必要だが、時間が限られた中で成果を上げるにはどうしたらよいか考えていかねばならない。

また、スケジュール調整などにも課題が見えた。どこにピークをもってくるか。そのために「いつ」「なにを」するのか。これも顧問が学んでいかねばならないと思う。

部活動だけでは時間が限られているので、保護者や地域も巻き込み、やる気ある子どもたちがソフトテニスを頑張れる環境を作っていくこともこれからの時代は重要な要因である。

これから神奈川が関東を勝ち抜き、全国で勝負するためには、選手のレベルアップはもちろんのことだが、保護者や地域を巻き込むことや、私たち顧問のレベルアップが不可欠だと感じた。

文章：新井孝浩